

- 自転車の道路上での位置づけ -

	ヨーロッパ	日本
	- 馬車の為に道路を整備 -	- 人が歩くために道路を整備 -
1600年代 (江戸時代)	<ul style="list-style-type: none"> ● 1600年代に馬車の大型化が進み駅馬車(現代の高速バス)が登場して、高速で移動する車輪付きの乗り物の為に道路網が整備されていきました。 ● 同時期の都市には、辻馬車(現代のタクシー)や乗合馬車(現代のバス)が登場し歩行者と車両を分ける必要性が強まり、歩道が整備されていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 車輪が付いていて高速で移動する乗り物は発達しなかったため、道路は徒歩の為に整備されてきました。 (車両としては荷車と牛車。一番早い乗り物は馬) ● 江戸時代には全国支配の為に、代表的な五街道(東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道)が作られ、参勤交代などの為に広く取られていましたが、車輪を用いた歴史がない為に舗装されてはならず、徒歩の為に整備されたため長い直線路を作らず意図的に曲げて作られたりしました。 (曲がっていた方が歩きやすい) ● 明治時代になると海外から馬車が輸入されましたが長距離移動の中心にはならず、その後、鉄道網の整備を進めたために道路は一部を除いて以前とあまり変わりありませんでした。
1800年代 (江戸後期 ～ 明治時代)	<ul style="list-style-type: none"> ● 1800年代になると、自転車が新たな交通手段として広まっていきますが、「徒歩よりも高速で移動出来る車輪付きの乗り物」なので、馬車と共にいわゆる車道を走行するようになります。 ● この頃、イギリスでは既に道路に歩道が設置されていました(歩道設置の先進国)。 	
1920年以降 (大正～ 昭和初期)	<ul style="list-style-type: none"> ● 1920年頃から自動車は急速に普及していきますが、馬車の為に整備された道路を基本として、馬車と入れ替わった自動車へも元々の道路を改良することで対応できました。 自転車と自動車の車道上での関係などが出来上がる時間的な余裕もありました。 (初期の自動車は、まだ性能が低く台数も多くはなかった) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1930年頃から自転車が交通の中心になっていきました。 自転車は車両として扱われましたが、道路整備には大きな変化はありませんでした。

ヨーロッパ

日本

1950年
以降
(戦後)

- その後、自動車専用道路(高速道路)が造られるなど交通情勢の変化に対応していきました。
- 1950年頃から自動車が急速に普及していきますが、道路の状態は一部を除いてそれまであった道路を舗装した程度で歩道もあまりない状態の中、車道を走行している自転車との事故が急増していきました。
(一般への自転車の普及と交通手段としての自動車の普及に時間的な差があまりなく、自転車と自動車が急速に道路上に溢れるようになった)
- 交通戦争と言われたこの時期に、自動車と自転車の事故の増加に対処する為、自転車が歩道を走行することが認められました。
(昭和53年改正の道路交通法 第63条の4)

現代

- 近年は自転車と自動車を分ける必要性が高まっており自転車道の整備が進められています。
(自転車が増え、自転車の安全な利用と更なる利便性の為)
(自転車は車両という歴史的認識がある)
- その後は、ほとんどの自転車が危険を避けて歩道を走行するようになっていきます。その為、「自転車は歩道を走るもの」との認識が広まると共に「自転車は車両」との認識は失われていきました。
- 近年では、歩行者と自転車の事故が増加した為、自転車を車両として再認識してもらい車道を走行するように平成19年に道路交通法が改正されました。しかし危険と判断される場合は歩道を走行しても良い等自転車の取り扱いが曖昧のままだったり、自転車は車両であることの周知が不足している為に、ほとんどの自転車が歩道を走行し続けていたり、車道上での自転車と自動車双方の振る舞いが確立していない等、混乱している状態にあります。
(自転車は車両という認識が薄い)